

とくていがいらいせいぶつ がいじゅう
特定外来生物・害獣の



© BANDAI

アライグマ・ハクビシン

って、どんな動物？



アライグマ



ハクビシン

台東区では、特定外来生物とくていがいらいせいぶつに指定されているアライグマと有害鳥獣ゆうがいちようじゅうとして疎まれていたハクビシンの目撃情報や相談件数が増加しています。特定外来生物とは、もともと日本にいなかった生物（外国から持ち込まれたり、やってきた生きもの）のうち、とくに私たちの生活や生態系などに被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれのあるものについて、国が規制すべき生物として指定した動植物のことです。

野生化したアライグマやハクビシンは、民家や社寺の天井裏などに住みつくこともあり、ゴミを荒らしたり、糞尿被害ふんにようを与えるなど私たちの生活に好ましくない影響をもたらします。これら迷惑動物の生態とともに、台東区の防除対策を紹介します。

 台東区



アライグマ・ハクビシンの見分け方

アライグマの生態と特徴

日本にいるアライグマは、アメリカからペットとして輸入され、その後、逃げ出したり捨てられたりしたものが増え、野生になったものです。

夜行性で、森林から都市部まで様々な環境に生息していますが、一般的に川や池などの水辺を好みます。雑食性なので生ゴミやペットのエサをはじめ、エビ、カニ、魚、カエルなどの水中生物やトカゲ、ネズミ、バッタ等の陸上生物、スイカやカキなどの果実や種子など何でも食べます。

アライグマを外見で見分けるポイントは「尻尾のしま模様」です。タヌキやキツネなど日本の野生動物にはこの模様がありません。気性が荒く、凶暴なところがありますので、見つけても触ったり近づいたりしないように注意してください。

見分けるポイントは
尻尾にある5~7本の
黒いしま模様です。

成獣は、頭から尻尾の先まで70~90cmほどで
中型犬くらいの大きさです。

耳はとがって、
白い縁どりがある。

目のまわりが、
黒いマスク模様。
眉間には黒筋。
ヒゲは白い。

前足・後足とも
5本指で
鋭い爪がある。



アライグマの足跡
後足 前足



ハクビシンの生態と特徴

ハクビシンは古く平安時代に輸入され、それがいつしか日本に定着してしまった外来動物だといわれています。本来の生息地は東南アジアや台湾などで、寒さに弱いため、民家や神社の縁の下や天井裏などに棲みつくことが多くあります。

アライグマと同じように雑食性で、とくにスイカやブドウ、リンゴ、トウモロコシなど果実類を好み、庭の農作物が被害にあっています。

見分けるポイントとしては、額から鼻先にかけて白い筋があることです。また、足が短く、尻尾が長いことから全体的にスリムな体型をしています。

木登りが得意で、薄暗い夕方に電線の上を歩いて移動するシーンに出くわすことがあります。

成獣は、頭から尻尾の先まで90~110cmほどで
尾が長く、全体的にスリムな体型です。

見分けるポイントは
白鼻心(ハクビシンの)
名の通り、額から鼻先に
白い筋があることです。

ハクビシンの足跡
後足 前足



前足・後足とも
5本指。爪なし。
足が短く、黒い。



間違わないで!
よく似ている
ほかの動物。

タヌキ

頭から尻尾の先まで
50~60cm。
体色は茶色で足は黒色。
尻尾にしま模様なし。
指は4本です。



イヌ



ネコ



アライグマ・ハクビシンによる被害事例

生活環境への被害

野生化したアライグマやハクビシンが増えると、市街地に進出し、ゴミ捨て場を荒らしたり、家屋の天井裏や縁の下に棲みついて建物を損壊させたり、糞尿による被害をもたらします。また神社や仏閣にも侵入するため、文化財への損害も報告されています。

何より衛生面で大きな影響を及ぼします。野生動物ですので、寄生虫(ダニ・ノミ・回虫など)を持っていたり、狂犬病などの感染症の媒介により、人間やペットへの影響も懸念されます。



アライグマによる木造家屋の損壊



ハクビシンによる天井裏の糞尿被害

農作物や畜産への被害

雑食性のため果実や野菜などの食害が増えています。庭や畑のスイカやトウモロコシ、ブドウ、ミカン、イチジク、ナシ、カキ、イチゴなど糖度の高い果樹や野菜類や畜産飼料の食害、また養魚場や養鶏場への侵入も確認されています。

農作物や畜産物はある程度生育したものでなくては出荷できません。したがって商品化直前の食害に対しては手のほどこしようがない状態です。

防護壁や防護ネットを設置しても、それらを登って侵入するため、数を減らす以外に手の打ちようがない状況です。

アライグマによる被害



穴を開けて食べられたスイカ



実をかじられたトウモロコシ

ハクビシンによる被害



基部を残して食べられたミカン



イチジクの食べあと

生態系への被害

共に夜行性のため、夜間の活動が活発です。木登りが得意なハクビシンは、樹上の鳥の巣を襲いヒナを食べたり、樹洞に侵入して、ねぐらにしていたフクロウやムササビ、コウモリなどを追い払います。

また川や池など水辺を好むアライグマは、サンショウウオやヤマアカガエル、ホトケドジョウなど絶滅危惧種に指定されている希少種を捕食しています。

他の動物に対して、感染症や寄生虫などを媒介する可能性もあり、在来の野生動物の減少につながる恐れがあります。このまま増え続けると、日本の生態系へ重大な被害をもたらすことが懸念されています。



壊された鳥の巣



捕食されたサンショウウオ



絶滅危惧種のアマアカガエル



希少なホトケドジョウ

台東区からのお願い。子どもたちに伝えてあげてください。

日本で最初に野生化したアライグマやハクビシンの多くは、家庭で飼われていたペットでした。可愛いからと簡単に飼い、手に負えなくなったら、まるでおもちゃのように捨ててしまう。そんな無責任な行為が原因で野生化して増えてしまいました。

犬や猫に限らず、ペットは私たちと同じ命ある生き物、そして家族です。家族の一員として迎えたら、ペットが一生涯を終えるその時まで、責任をもって一緒に暮らしてあげてください。とても当たり前の事ですが、一番大切なことだと思います。

防除対策～被害にあわないために～

●縁の下や通風口など家屋の隙間をふさぐ。

家屋への侵入を防ぐために、縁の下や通風口、屋根と壁の間などの隙間をふさぐことが有効です。

アライグマなら10cm角、ハクビシンなら右枠のように、頭が入り込める7～8cm角の隙間があれば、どこからでも侵入します。



ハクビシンなら
これくらいの穴でも
侵入します



●生ゴミや敷地内の果実などを放置しない。

雑食性なのでバッタやセミなどの昆虫、トカゲやネズミ、鳥のヒナなどの小動物、スイカやカキ、ミカンなどの果実や種子まで、何でも食べます。

生ゴミやペットフードの残りものなどは外に放置しないようにしましょう。また敷地内の果実や野菜など取り残したものが無いようにしましょう。

生ゴミなど
何でも食べる雑食性



●台東区のアライグマ・ハクビシン対策事業

住宅等の天井裏などを継続的に利用している恐れがある場合または糞尿などによる被害がある場合には、区による捕獲事業も行っておりますのでご相談ください。

○捕獲は専門業者に依頼して行います。

鳥獣保護法、外来生物法により、無許可でアライグマ・ハクビシンを捕獲することはできません。

○単なる目撃や果樹食害のみの場合は捕獲が困難です。

アライグマやハクビシンの行動圏は広く、目撃情報のみでは捕獲が困難です。また餌となる果樹がある場合にはアライグマ・ハクビシンが引き寄せられてしまうため、早めに収穫する等の対策をお願いします。



アライグマ・ハクビシンに関するご相談・お問い合わせ先

台東区 環境清掃部 環境課 公害指導相談担当

〒110-8615 台東区東上野4-5-6 電話03-5246-1283

発行：令和元年9月

参考文献／東京都環境局発行「アライグマ・ハクビシンによる被害事例」、埼玉県農林総合研究センター、関西野生動物研究所



© BANDAI